

SEA&SEA

09130(ブラック)

09131(ホワイト)

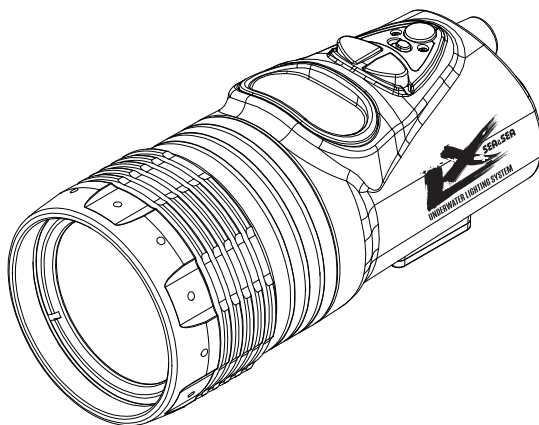
UNDERWATER LIGHTING SYSTEM

LX-4000SW FS



Rev.1.00

日本語



取扱説明書
Instruction Manual

はじめに

この度は、シーアンドシー製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みになり、内容を十分に理解してから正しくお使いください。お読みいただいた後は、いつでも見られるところに必ず保管してください。

お知らせ

本製品は、シーアンドシー耐圧検査基準に基づいた検査に合格しています。

本製品の外観に若干の色味の差、または筋状のもの（ウエルドライン）が見える場合がありますが、製品の品質・性能上問題はありせんので安心してご使用ください。

目次

安全上のご注意	J-02
電池使用上のご注意	J-05
Oリングの取り扱いに関するご注意	J-07
同梱品を確認しましょう	J-09
各部の名称	J-10
バッテリーを装填しましょう	J-11
充電しましょう	J-12
バッテリーに直接充電	J-12
バッテリーを装填したまま充電	J-12
グリップ/ベースの取り付け	J-14
操作方法	J-15
点灯・モード切替・消灯	J-15
4段階調光(25%ステップ)	J-15
100段階調光(1%ステップ)	J-15
電源ロック	J-15
フラッシュセンサーモード	J-16
点滅シグナルモード	J-16
SOSモード	J-17
ライトヘッドの換装	J-18
プログラムの切り替え手順	J-18
安全設計	J-19
高温時保護モード	J-19
セーフティモード	J-19
お手入れと他の上のご注意	J-20
仕様	J-21

安全上のご注意

本製品は水中専用ライトです。セッティング確認時を除き陸上での発光は控えてください。

ここに示した注意事項は、人や製品への危害や損害を未然に防止するための重要な内容を記載しています。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。

⚠ 危険 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が高いと想定されます。

⚠ 警告 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

⚠ 注意 取り扱いを誤った場合、ケガを負う可能性および物的損害の発生が想定されます。また、製品の品質・信頼性が損なわれる可能性が想定されます。

⚠ 危険

●本製品を分解・加工改造（ハンダ付けなど）・加熱・火中投入などをしないこと。火災や感電、発火・発煙の恐れがあります。分解・加工改造品の浸水・破損・故障等の保証はいたしかねます。修理や内部の点検は、ご購入の販売店にご相談ください。

⚠ 警告

- 指定以外の電池は使用しないこと。指定以外の電池を使用すると、ガスが発生して破裂する恐れがあります。
- 本製品を収納・運搬するときは、必ず電池を外すこと。電池を装着したまま収納・運搬すると、意図せずに電源が入り、火災の原因になります。
- 本体ケースやライトヘッドを開ける際は、人体に向けないこと。電池の発熱などが原因で本体内部が高圧になると、ケースやライトヘッドが勢いよくはずれることがあり、ケガの原因になります。
- 本製品の内部に水や異物を入れないこと。火災や感電の原因となります。本製品は防水構造になっていますが、何らかの原因で内部に水が入ったときは、すぐに電源を切り、使用を中止してください。
- 濡れた手で電池を触らないこと。感電の原因になります。
- 可燃性ガスおよび爆発性ガスなどが大気中に存在する恐れがある場所では、使用しないこと。引火や爆発の原因になります。
- ライトの発光部を床や机などに伏せた状態で発光させないこと。発熱や火災の原因になります。
- ライトの発光後、発光部に触らないこと。ヤケドの原因になります。
- 自動車内の運転者に向けてライトを使用しないこと。目がくらみ、運転不能となり、事故を起こす原因になります。

- 本製品を乳幼児の手に届くところに置かないこと。付属品や小さな部品などを誤って飲み込む恐れがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

注意

- ご使用の前に、必ず本製品の取扱説明書(本書)をよく読んでからお使いください。
- 本製品の耐圧深度は100mです。水深100m以上の水中でご使用になると、浸水や故障の原因となる場合がありますのでご注意ください。
- 煙が出たり、変な音やにおいがするときは、ただちに使用を中止し、ご購入の販売店にご相談ください。
- 万一、浸水した場合は、ただちに電源を切り、すぐに使用を中止してください。
- 浸水しているときは、内部の圧力が高くなっていることがあります。ライトヘッドを開けるときに水が吹き出したり、ライトヘッドが跳ね上がったたりすることがありますのでご注意ください。ケガの原因になります。
- ライトヘッドの開閉は、火の気のない場所でおこなってください。
- 本製品は気密構造となっておりますので、密閉した状態で航空機などで運搬した場合、内外の気圧差が生じることがあります。ライトヘッドをはずして運搬してください。
- 水しぶきのかかるところ、湿気の多いところ、海岸など砂のつきやすいところ、室内と外気温の差が大きいところでは、本製品の開閉をおこなわないでください。水滴落下・浸水などにより故障の原因になります。
- 強い磁気の発生する場所では正常に動作しなくなることがありますのでご注意ください。
- 飛行機内や病院内では、航空会社・病院の指示に従ってください。本製品が出す電磁波などにより、計器に影響を及ぼす恐れがあります。
- 本製品を布団などでおおった状態で使用しないでください。熱がこもって本体の変形や火災の原因となることがあります。
- ライトを人(特に乳幼児)の目の前に近づけて使用しないでください。目の近くで発光させると、視力障害を起こす危険があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上離れてください。
- 使用中のライトヘッドには長時間ふれないでください。温度が相当上がることがありますので、長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やケドの原因となることがあります。
- 本製品を落としたり、振り回したり、持ったままボートから海に飛び込んだり、機材を海に投げ込むなど、強い衝撃を与えないでください。思わぬケガや破損・故障の原因となります。
- ライトは確実に固定し、落下・紛失などにご注意ください。また、必要以上に曲げたり、力を加えたりしないでください。思わぬケガや破損・故障の原因になります。

- 本製品および取り付けたアクセサリなどを持ってハウジングを持ち上げたり、運んだりしないでください。落下・破損など、思わぬケガや故障の原因になります。持ち運ぶ際は、ハウジング本体やグリップなどをお持ちください。
- 本製品の上に重たいものを置いたり、乗ったりしないでください。重量で本体が変形して内部部品が破損すると火災・感電・故障の恐れがあります。また、浸水の原因にもなります。
- ご使用後は、防水されている状態で、必ず真水で洗ってください（詳しくは「お手入れと保管上のご注意」P. J-19をご覧ください）。
- 薬品・化粧品、シンナーなどの石油系溶剤、台所用中性洗剤などは変形や損傷の原因となる場合がありますので、絶対に使用しないでください。
- 高温になるところに放置しないでください。特に炎天下や真夏の車内、車のトランクの中は非常に高温になりますので、絶対に放置しないでください。本製品はプラスチックを一部使用しておりますので、熱で変形し内部部品が破損すると、火災・感電・故障などの恐れがあります。また、高温となる環境下に製品を密閉した状態で放置すると、内部の圧力が上がり本体の変形や反り等が生じて、浸水の原因となったり、結露を生じる場合があります。
- 水に濡れた場所や湿気の多い場所に本製品を保管しないでください。カビやサビ、腐蝕・故障の原因になります。
- ナフタリンや樟脳が入った場所や、実験室のような薬品を扱う場所では保管しないでください。カビやサビ、腐蝕・故障の原因になります。
- 長期間ご使用にならないときは、内部電子部品の劣化を防ぐため、1ヶ月に一度を目安に電池を入れてテスト発光をおこなってください。各操作部も実際の撮影同様に動作させてください。その後、消灯し電池を取り出してください。
- 万一、本製品の不具合により撮影できなかった場合でも、撮影内容、および撮影のための諸経費などの補償についてはご容赦ください。
- 本製品のご使用において、万一、お客様の取り扱い上の不注意により破損・損傷などが生じた際のカメラ、レンズ、その他アクセサリ等の交換・補償はいたしかねます。
- Oリングの取り扱いにつきましては、「Oリングの取り扱いに関する注意(P. J-07)」をご覧ください。
- 本書の記載内容の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 仕様および外観などは予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
- 本製品に付属しているシリコングリスは食べられません。

電池使用上のご注意

危険

- 電池を火中に投入したり、加熱しないこと。
- 電池に直接ハンダ付けしないこと。
- 電池を分解・改造しないこと。発熱・発火したり、強アルカリ性の液が飛散して危険です。
- 電池の端子部(＋と－)に金属(針金やネックレス、ヘアピンなど)を接触させないこと。また、金属物と一緒に持ち運んだり、保管しないこと。電池の液もれ・発熱・発火・破裂などにつながる恐れがあります。
- 電池の充電は、専用充電器を使用して指定の充電条件を守ること。電池が液もれ・発熱・破裂する原因になります。
- 電池の液もれが発生した場合は、すぐに火気より遠ざけること。もれた液や気体に引火して、発火・破裂の恐れがあります。
- 万一、電池の液もれが発生し、液が皮膚や衣服に付いた場合は、すぐに水でよく洗い流すこと。皮膚に障害を起こすことがあります。液が目に入ったときは失明の恐れがありますので、目をこすらずにきれいな水で洗い、ただちに医師にご相談ください。
- 電池を電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み口に直接接続しないでください。

警告

- 電池を水や海水等につけたり、端子部分を濡らさないこと。電池を発熱させたり、端子等のサビの原因になります。
- 電池のケースや外装チューブをはがしたり、キズをつけないこと。電池が液もれ・発熱・破裂する原因になります。
- 充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめること。電池が液もれ・発熱・破裂する原因になります。
- 電池の液もれ、変色・変形、その他従来と異なる場合は使用しないこと。異常と感じたときは、すぐに使用を中止し、ご購入の販売店にご相談ください。
- 本体および電池は、特に乳幼児の手の届くところに置かないこと。
- 電池を直射日光の当たるところや炎天下の車内、ストーブの前面などの高温の場所で使用、放置しないこと。電池の液もれ、発熱、性能低下、寿命短縮の原因となります。
- 指定外の電池を使用しないでください。液もれ・発熱・破裂により、けがや火傷の原因となることがあります。

 注意

- 電池に強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。
- 充電電池を長時間ご使用にならなかった場合は、必ず充電してください。
- 電池の端子が汚れると機器との接触が悪くなり、電源が切れる、充電されないなどが起こります。乾いた布などで拭いて端子をきれいにしてからご使用ください。
- 電池を使用機器に接続した状態で長時間放置しないでください。また、ご使用後は、使用機器のスイッチを必ず切ってください。液もれの原因になります。
- 使用済みのリチウムイオン充電電池は貴重な資源です。端子にテープを貼り付け絶縁してから、充電電池リサイクル協力店に持参してください。

Oリングの取り扱いに関するご注意

本製品はOリングで防水を保っています。Oリングの機能を十分に生かすため、以下にご注意ください。取り扱いが不適切だと浸水の原因になります。

注意

- 弊社製品は青色のOリングを使用しています。このOリングは特殊な加工により、シリコンオイルを内部に閉じこめてあります。徐々にシリコンオイルが内部よりしみ出してある程度の間、潤滑効果が持続します。
- このOリングのお手入れには、必ず、弊社製純正シリコングリス（青色Oリング用 O-RING GREASE: 文字、キャップが青色のもの）をご使用ください。他社製のシリコングリスや弊社の文字が黒色のシリコングリスを使用すると、青色Oリングの特殊な性質により塗られたグリスを吸い込んでしまい、逆にグリス切れの状態になってしまいます。一度でもこの状態になるとOリングは元には戻りませんので、必ず交換してください。
- グリス切れの状態では、Oリングが滑らず防水部分の開閉が固くなります。それにより、開閉ができなかったり浸水の原因となることもありますので、グリス切れのままでの使用は避けてください。

Oリングにキズやヒビ割れはありませんか？

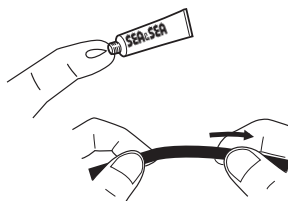
キズ、ヒビ割れがないことを確認してください。もしある場合は、直ちに新しいOリングと交換してください。Oリングを取り扱う際、金属製の尖ったものはキズがつくことがありますので、使用しないでください。

ゴミや砂、毛髪に注意してください

Oリング、Oリング溝、Oリング接触面にゴミや砂、毛髪などが付いていないことを確認してください。それらが付着している場合は、完全に取り除いてください。そのままご使用になると、浸水の原因になります。

シリコングリスを塗ってください

シリコングリスは、Oリングの摩擦を軽減します。Oリングにキズやゴミ、ホコリなどがないことを確認後、シリコングリスを指先でOリング全体に薄く塗ってください。多すぎるとゴミやホコリが付着しやすくなり、浸水の原因になります。装着の際は、Oリングがねじれないように入れてください。



Oリングは毎回はずしてチェックしてください

セッティングの前は、毎回Oリングをはずして、Oリングや溝、Oリングの接触面等をチェックすることを原則とします。Oリングをはずさないと、Oリング溝の奥に入り込んだ砂やゴミが発見できないからです。ご使用前のメンテナンスは、必ずOリングをはずしておこなうことをおすすめします。

保管方法に注意してください

予備のOリング、またははずしたOリングを保管する場合、直射日光の当たらない涼しい場所に保管してください。また保管の際、Oリングに重いものをのせたり、Oリングを折り曲げたりしないでください。

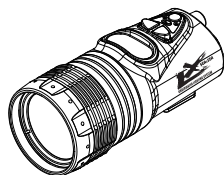
Oリングの耐久年数は1年です

お手入れの状態、使用回数、保存状態などにより異なりますが、基本的にOリングの耐久年数は1年です。使用前に点検し、早めの交換をおすすめします。

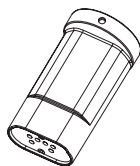
同梱品を確認しましょう

本製品をご使用いただく前に、すべての同梱品が入っていることをご確認ください。

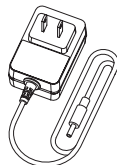
LX-4000SW FS



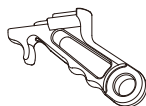
バッテリーパックSB-L1



チャージャー



ガングリップ



ボールベース



YSベース



GoProベース



Loc-Lineベース



コネクターキャップ



チャージプラグ



リストランヤード



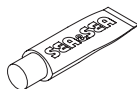
ベース固定ネジ



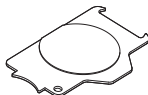
六角レンチ【対辺5mm】



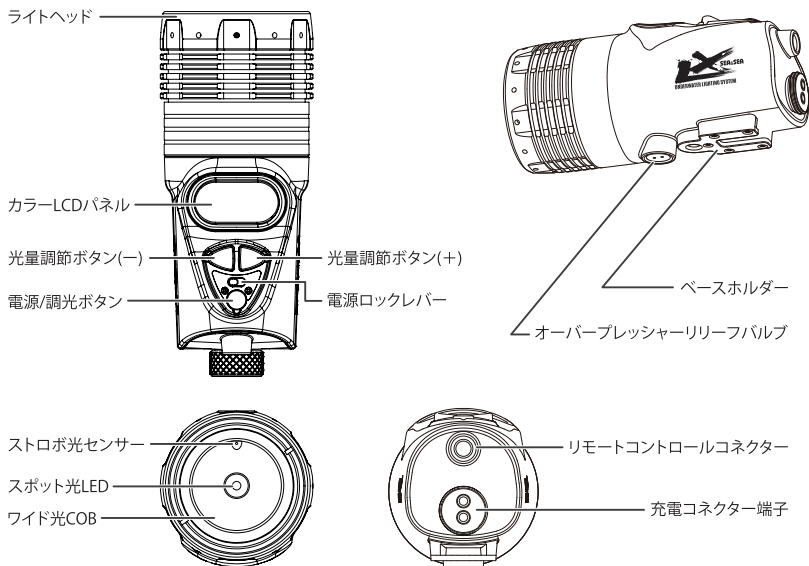
Oリンググリス



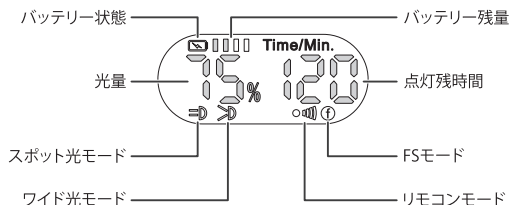
Oリングリムーバー



各部の名称



LCDパネル表示



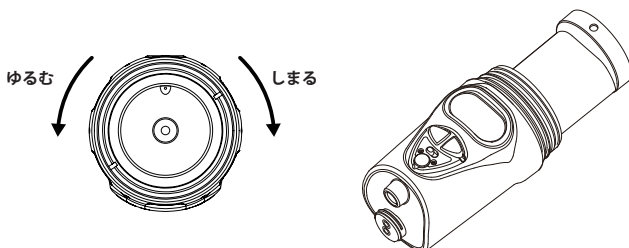
- 光量 : 点灯中の光量を 1% 刻みで表示します。
- バッテリー残量 : 残電量を 4 段階のバーで表示します。
- 点灯残時間 : 点灯可能時間をリアルタイムで表示します。

⚠ 注意

- リアルタイムで表示される点灯残時間は、バッテリー残量と光量により自動算出される理論値です。この数値は、バッテリーのコンディションや周囲の水温などの使用環境により、実際の点灯残時間とは誤差が生じる場合があります。

バッテリーを装填しましょう

- 1 本体ケースをしっかりと持ち、ライトヘッドを反時計回りに回す
- 2 バッテリーの金属端子部に汚れ、水滴などが付着していないか確認する
- 3 本体ケースにバッテリーを装填する
- 4 本体ケースをしっかりと持ち、ライトヘッドを時計回りに回して取り付ける
 - ストロボ光センサーが真上にくる位置までねじ込んでください。それ以上締め付けると、ライトヘッドが開けづらくなる場合があります。



●バッテリーの取り外しは、逆の手順で行います。

⚠ 警告

- 濡れた手や濡れた環境での作業は感電や破損のおそれがありますので、絶対におやめください。

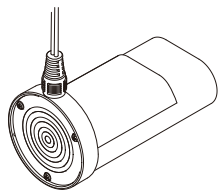
⚠ 注意

- ライトヘッドを閉める前に必ずOリングやOリング溝、Oリング接触面にゴミや砂などの付着がないことを確認し、Oリングのグリスアップを実施してください。
- バッテリーを取り出す際、落下にご注意ください。バッテリーの破損だけでなく、ケガなどにつながるおそれがあります。

充電しましょう

バッテリーに直接充電

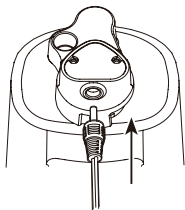
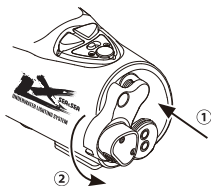
- 1 ライトの電源がオフであることを確認する
- 2 バッテリーをライトから取り出す
- 3 チャージャーのACプラグを電源コンセントに挿し込む
 - チャージャーのLEDが緑色に点灯していることを確認してください。
- 4 チャージャーのコネクターをバッテリーに挿し込む
 - チャージャーのLEDが赤色に切り替わったことを確認してください。
- 5 充電が完了したらコネクターをバッテリーから取り外す
 - 充電が完了すると、チャージャーのLEDが緑色点灯に切り替わります。(最大2.5時間)



バッテリーを装填したまま充電

ライトヘッドを取り外さないため、浸水の危険なしに充電を行うことができます。

- 1 ライトの電源がオフであることを確認する
- 2 ライトのリモートコントロールコネクターにチャージプラグを挿し込む
- 3 チャージプラグを反時計回りに「カチッ」というまでスライドさせる
- 4 チャージャーのACプラグを電源コンセントに差し込む
 - チャージャーのLEDが緑色に点灯していることを確認してください。
- 5 チャージャーのコネクターをチャージプラグに挿し込む
 - チャージャーのLEDが赤色に切り替わったことを確認してください。
- 6 充電が完了したらコネクターを取り外し、チャージプラグをライトから取り外す
 - 充電が完了すると、チャージャーのLEDが緑色点灯に切り替わります。(最大2.5時間)



 危険

- 充電中はバッテリーやチャージャーが熱を持つことがありますので、絶対に紙や絨毯など燃えやすい物の上で充電しないでください。
- ケーブルを束ねた状態で充電すると、発熱により発火の原因となるおそれがありますので絶対におやめください。
- 濡れた手、濡れた環境での充電は、感電するおそれがありますので、絶対におやめください。
- 水没した、あるいは水没しているおそれのあるバッテリーを絶対に充電しないでください。

 警告

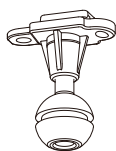
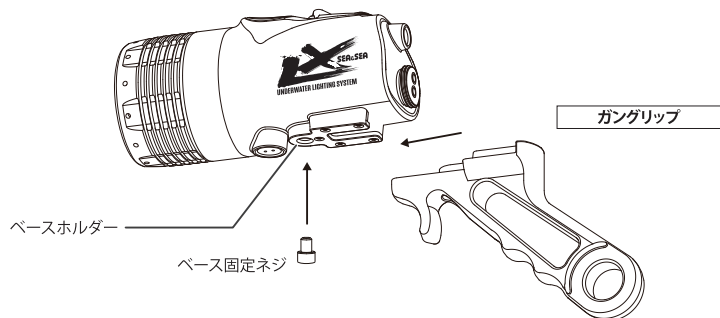
- 充電を開始する前に、必ず充電コネクタ端子に汚れや水滴が付着していないか確認してください。もし、汚れや水滴が付着していた場合は十分に清掃してください。製品の故障だけでなく、感電の危険性があります。
- ライトヘッドを下向きに置いて充電する場合は、ライトが点灯していないことを確認してください。
- 充電が完了したら速やかにチャージプラグを取り外してください。コンセントに挿したまま放置すると、アダプターがショートし、発火の原因となるおそれがあります。
- チャージプラグをライトに接続したまま水中で使用しないでください。チャージプラグは防水仕様ではありません。
- チャージャーはマルチボルト(100-240V)対応ですが、自家発電のリゾートやクルーズ船など不安定な給電での使用は、異常な高電圧によりチャージャーを破損させてしまうおそれがあります。安全回路内蔵の変圧器を併用することをおすすめします。

 注意

- 振動や衝撃、落下などで充電コネクタからプラグが外れることがないように、安定した場所で充電してください。
- 充電コネクタを挿したままの状態で放置すると、過放電状態となり充電ができなくなることがあります。
- ライトの充電コネクタ端子は、防水機能を備えていますが、使用後に海水が残ってしまうと腐食の原因となります。
- 付属のコネクタキャップは、充電コネクタ端子部を保護・防水します。充電コネクタ端子部に海水が及ばないように、ダイビング中はコネクタキャップの装着を強くおすすめします。
- バッテリーおよびチャージャーを高温になる所や直射日光の当たる所に放置しないでください。

グリップ/ベースの取り付け

- 1 ライト後方より用途に合わせたベースをスライドさせて、ベースホルダーに挿し込む
- 2 六角レンチでベース固定ネジを締め込み固定する



ボールベース



YSベース



GoProベース



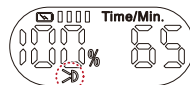
Loc-Lineベース

●各ベースの楕円穴にはリストランヤードが取り付けられます。

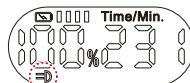
操作方法

点灯・モード切替・消灯

- 1 電源/調光ボタンを押して点灯する
●モード・光量は前回消灯時の状態を維持します。
- 2 電源/調光ボタンを約1秒間長押しするとモードが切り替わる
- 3 電源/調光ボタンを約3秒間長押しすると消灯する



ワイド光点灯時



スポット光点灯時



●消灯直前にモードが一瞬切り替わりますが仕様であり、異常ではありません。

4段階調光(25%ステップ)

- 1 電源/調光ボタンを押すごとに25%刻みで光量が切り替わる
●[25%] ⇒ [50%] ⇒ [75%] ⇒ [100%] ⇒ [25%] … の順で切り替わります。

100段階調光(1%ステップ)

- 1 光量調整ボタン(+)を押すごとに1%刻みで光量が増加する
●ボタンを押し続けると100%まで早送りできます。
- 2 光量調整ボタン(-)を押すごとに1%刻みで光量が減少する
●ボタンを押し続けると0%まで早送りできます。

電源ロック

- 1 電源ロックレバーを右側にスライドすると、電源/調光ボタンがロックされる
●持ち運びや輸送中の誤点灯を防止することができます。

フラッシュセンサーモード

ストロボ光を感知してライトを消灯することで、ストロボ撮影時のライト光の映り込みを防止することができます。

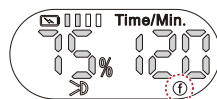
1 電源/調光ボタンを押して点灯する

2 光量調整ボタン(+)(-)を同時に約2秒間長押しするとフラッシュセンサーモードに切り替わる

- ストロボの発光を感知すると自動消灯し、1秒後に自動的に再点灯します。
- フラッシュセンサーモード中は、LCDパネルに「f」アイコンが点滅します。

3 再度光量調整ボタン(+)(-)を同時に約2秒間長押しすると元のモードに切り替わる

約2秒間同時押し



フラッシュセンサーモード時

- 撮影条件によっては、ライトの反射によりフラッシュセンサーが反応してしまう場合があります。その際は、光量を下げるなどしてご使用ください。

点滅シグナルモード

短い点滅を繰り返すことで、自分の位置を周囲に伝えたり、ボート上の相手に合図を送ったりすることができます。

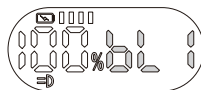
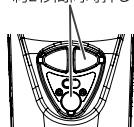
1 電源/調光ボタンを押して点灯する

2 光量調整ボタン(+)と電源/調光ボタンを同時に約2秒間長押しすると点滅シグナルモードに切り替わる

- ライトが短い点滅を繰り返します。

3 再度光量調整ボタン(+)と電源/調光ボタンを同時に約2秒間長押しすると元のモードに切り替わる

約2秒間同時押し



点滅シグナルモード時

SOSモード

SOS救難信号を発することができます。
緊急時以外には絶対に使用しないでください。

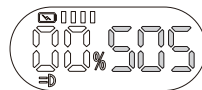
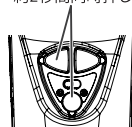
1 電源/調光ボタンを押して点灯する

2 光量調整ボタン(－)と電源/調光ボタンを同時に約2秒間
長押しするとSOSモードに切り替わる

●[短い点滅3回]⇒[長い点滅3回]⇒[短い点滅3回]を繰り返します。

3 再度光量調整ボタン(－)と電源/調光ボタンを同時に
約2秒間長押しで元のモードに切り替わる

約2秒間同時押し



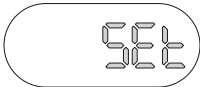
SOSモード時

- 本製品は、消灯時のモード・光量の設定を記憶し、次回点灯時に同様の設定を維持するメモリー機能を搭載しています。ワイド光、スポット光で異なる光量に設定されていた場合には、それぞれの光量設定を記憶します。
- フラッシュセンサーモードも記憶し、次回点灯時もモード・設定を維持します。
- 点滅シグナルモード、SOSモードは消灯すると自動的に解除されます。

ライトヘッドの換装

本製品は、別売りの最大光量が異なるライトヘッドとの換装が可能です。
ライトヘッド換装後は、以下の手順に従ってプログラムの切り替えを行う必要があります。

プログラムの切り替え手順

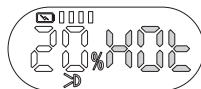
- 1 消灯状態で、電源/調光ボタンを約7秒間長押しする
●ライトが点灯する場合がありますので、顔などに向けて操作しないでください。
●LCD/パネルに[SET]が数回点滅後、
換装前のライトヘッドのプログラム番号が点滅します。
- 2 光量調節ボタン(+)(-)を使って、換装後のライトヘッドのプログラム番号を選択する
- 3 電源/調光ボタンを押してプログラムの切り替えを確定する

プログラム番号	LCDパネル表示	対応ライトヘッド
40F	40F	LX-4000SW FS
24F	24F	LX-2400SW FS
12F	12F	LX-1200SW FS

安全設計

高温時保護モード

使用中にライトヘッドが55℃以上になると、自動的に保護モードへ移行し、光量を20%まで落とします。LCDパネルには高温状態を示す[HOT]が表示されます。高温時保護モードに切り替わった場合は、一度消灯し、ライトヘッドを冷却することをおすすめします。ライトヘッドは大変高温になっていますので、素手で触れないなど取り扱いには十分ご注意ください。温度が45℃以下まで下がると再び通常モードへ復帰します。



セーフティモード

バッテリー残量が残りわずかになると、自動的に光量を20%まで落とし、バッテリー表示が点滅します。また、点灯残時間[10min]が表示され、カウントダウンを開始します。セーフティモード中は光量調整を行うことはできません。

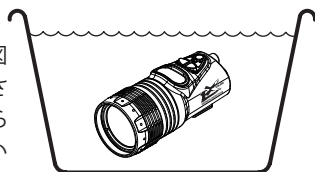
⚠ 注意

- セーフティモード移行後は、安全のため速やかに浮上するようにしてください。
- LCDパネルに表示される点灯残時間は、バッテリーのコンディションや周囲の水温などの使用環境により、実際の点灯残時間と誤差が生じる場合があります。

お手入れと保管上のご注意

⚠ 注意

- ご使用になった後は、必ず防水されている状態で、図のように十分に真水に浸けてから流水で洗ってください。可動部分（レバーやボタンなど）は動かしながら洗ってください。洗うときはライトヘッドがゆるまないようにご注意ください。
- 十分に真水に浸けなかったり、流水で洗うだけでは塩分が残り、乾燥すると塩は結晶となり水に溶けにくくなります。本製品に付着した塩の結晶は非常に取れにくく、浸水の原因になることもありますので、必ず真水に十分に浸けてください。
- 水洗いした後は、乾いた柔らかい布で水気をよく拭き取り陰干しで乾かしてください。
- 熱を発生する器具で強制的に乾燥させることは、変形や破損の原因となることがありますのでおやめください。
- 長期間で使用にならないときは、高温・高湿、直射日光の当たる場所や、極寒になる場所を避けて保管してください。
- ご使用になった後は、バッテリーを取り出して保管してください。
- ご使用になった後は、Oリングのメンテナンスをしてから保管してください。ご使用の前後に必ずOリングの点検をし、早めの交換をおすすめします。
- ご使用の頻度や保管状態によっても異なりますが、製品の性能を維持するために、お買い上げから2年毎に1回を目安に、オーバーホール（有料）することをおすすめします。
- 長期間で使用にならないときは、内部電子部品の劣化を防ぐために、1ヶ月に一度を目安にバッテリーを入れてテスト発光をおこなってください。



仕様

最大光量	3860lm(ワイド) / 1500lm(スポット)
照射角(水中)	100°(ワイド) / 30°(スポット)
色温度	5500K (ワイド) / 6500K (スポット)
演色性	RA90 (ワイド) / RA70 (スポット)
連続点灯時間(最大光量点灯時)	30分 (ワイド) / 90分 (スポット)
調光方式	4段階調光 (25%ステップ) 100段階調光 (1%ステップ)
フラッシュセンサー	搭載
リモートコントロール(オプション)	対応
ユーザーインターフェイス	カラーLCD/パネル
バッテリー容量	リチウムイオンバッテリー 3400mAh/7.4V
充電時間	2.5h
充電方式	①ライト本体装填方式 ②バッテリー直接方式
サイズ	Φ58×139mm (突起部を除く)
重量(バッテリー含む)	430g (陸上) / 163g (水中)
ライトリングネジ径(拡張規格)	M52

SEA&SEA